

＜学校教育目標＞

ふるさとを愛し、学びをつなぎ、挑戦し続ける生徒の育成

＜目指す生徒像＞

①自らの夢に向かって挑戦し、未来を切り開いていく生徒、②自ら考え、行動し、よりよい生活を築こうとする生徒、③お互いを尊重し、積極的に他者と関わる生徒

第1章 自校の調査結果から見られる生徒の姿

本校の生徒は、学校生活への満足度や規範意識が高く、友人関係や教員との関係も良好で、安心して生活できる環境の中で学んでいます。ICT活用能力も比較的高く、学校としての安定した基盤が大きな強みです。一方で、学習面では、「自分で考える」「説明する」「学んだことを活用する」といった力に課題が見られます。基礎的な知識・技能は一定程度身に付いているものの、学習内容を深く理解し、実際に使いこなすまでには至っていない傾向があります。また、家庭学習や振り返りの習慣、主体的に学ぼうとする姿勢にも課題があり、「分かる」ことが「身に付く」ことにつながりにくい状況が見られます。特に、理科や社会では探究的な学びや資料活用、説明活動の弱さが課題となっています。保護者や地域からは、学校の雰囲気や人間関係について高い評価をいただいている一方で、家庭学習習慣や学力面への不安、授業中の集中力や規律について課題が指摘されています。

第2章 生徒の姿を踏まえた学校改善プランの柱

（1）【主体的に学び、学ぶ意義や価値を理解する柱】

柱1では、生徒が「なぜ学ぶのか」を理解し、自ら学ぼうとする力を育てます。そのために、授業では学習目標を明確にし、毎時間の振り返りを重視します。また、理由を説明する活動や話し合い活動を充実させ、学習内容と生活・社会とのつながりを意識させる授業づくりを進めます。特に、「目標を立てる→学ぶ→振り返る」という学習の流れを全校で統一して取り組みます。

（2）【基礎・基本を確実に習得する柱】

柱2では、基礎的な知識を確実に定着させ、活用できる力につなげます。授業では、重要事項を明確にした指導や小テストによる確認、学習内容の整理・関連付けを行います。また、間違いを見直す活動を重視し、理解を深めます。家庭学習についても、学習方法を分かりやすく示し、学習状況が見える化することで、学校と家庭が連携して学習習慣の定着を図ります。

（3）【学校生活を充実する柱】

柱3では、本校の強みである良好な人間関係を生かしながら、学習に集中できる環境づくりを進めます。そのために、授業中のルールや指導基準を全校で統一し、学習態度と学力との関係を意識させる取組を進めます。さらに、努力を認め合う雰囲気づくりや、安心して挑戦できる学級づくり、保護者への積極的な情報発信にも力を入れていきます。

第3章 学校改善に向けた具体方策

学校改善は、一時的な取組ではなく、PDCAサイクルを活用しながら継続的に見直しと改善を進めていきます。学校では、方針や指導方法を全教職員で共有し、統一した指導を行います。また、授業では「目標→学習→まとめ→振り返り」の流れを大切にし、学びの質の向上を図ります。家庭に対しては、家庭学習の進め方や学習計画について分かりやすく支援し、地域に対しては、地域資源を活用した学習や学校公開などを通して、学ぶ意義を高める取組を進めます。本校では、「取組を絞り、全員で着実に実行すること」を大切にしながら、生徒一人一人の成長を支えてまいります。